

父母連ニュース

草加市保育園父母会連合会 機関紙
2006年度 第号/2006年12月9日発行
発行責任者：阿部927-2356・伊藤928-6960



表 面：11/23 市長&父母連の懇談のご報告
裏 面：11/12 第15回草加子育てのつどい、
9月議会の報告



すっかり寒くなりました。
お元気ですか？
送りむかえの自転車で耳が痛くなる～
各保育園お楽しみ会の時期ですね！
我が子だけでなく、子どもたちみんな
なみだがでちゃうほど可愛いですよね！



市長さんとの有意義な懇談ができました

～11・23市長&父母連の懇談～

11月23日に市役所で父母連は木下市長さんの懇談をしました。
急なとりくみでしたが市は市長さんをはじめ、健康福祉部長・副部長、保育課長・課長補佐など、
保育園保護者は67人が参加しました。

懇談の項目として父母連は

- 1) さかえ保育園建替え、あずま保育園建替えの構想について
- 2) 第二きたうら保育園の「廃園」について
- 3) 公立保育園での0才児保育の廃止について



をお願いして、市長さんが受け止めての懇談ができました。

なお、この懇談に父母連は全市議会議員さんに同席をお願いして松井優美子議員（自由市民クラブ）

丹羽義昭議員（自由民主）須藤哲也議員（民主党）石村次郎議員（平成クラブ）の4議員の同席を
いただきました。他に市職員労働組合保育部会からのご同席、市のご配慮で保護者の参加保障のために
公立保育園の8人の園長先生による一時保育もいただきました。ありがとうございました。

市長さんからいただいたおはなし

1) さかえ保育園の定員について

「今のところ1才児からと計画している。さかえ保育園の定数は180人でいきたい。しかし様々な環境のバランスを考えた上で無理だと思えば160人とかの最終判断もありうる。待機児のことを考えると予定通り180人でいきたいというのが本音」

あずま保育園たてかえについて

「現行では2才児からのところを1才児からの受け入れなので、0才児保育の撤退ではなくて、受け入れ年齢の拡大として理解できるはず」

2) 第二きたうら保育園の「廃園」について

「5年間が限度。今年は2年目。もともと1年限りの仮設園舎でありそれを更に5年延長したものだ。父母連のみなさんも経過は知っているはず。市が率先して法令違反をしたら市政が成立しなくなる。みなさんの心配はおそらく、移園の不安にあるのではないかな。最終年度に仮に5才児50人であっても、保育士2人のみということはない。最低でも4人以上の配置が必要と判断している。移園の心配であれば対応をする。3才からの受け入れで最終年度までということであればそのように考えることもやぶさかではない。相談したい」

3) 公立保育園での0才児保育の廃止、家庭保育室について

「市の財政が苦しい中どうすれば良いか、0才児保育について原点から考えた。家庭保育室で行くと公立保育園より予算が少なく済むことがわかった。今すぐ公立保育園で0才児保育をやめるということではない。公立保育園の周辺に家庭保育室を充実していく上で条件が整い次第0才児廃止という考え。家庭保育室の充実については実はすでにたくさん検討している。年度はじめの定員割れに全額とは行かなくても何らかの措置をしなければならないと思う。そのほか公立保育園の0才児廃止に向けた家庭保育室の充実には、開設前の講習受講義務、スタッフの有資格者割合を1/3以上、公立保育園の栄養士との連携、家庭保育室入室児の公立保育園入所枠確保などである。また父母連から指摘された家庭保育室の保育料の第二子減額はやる必要がある。やらなければならない」



※ 今年度内に「第2きたうら保の今後に関する説明会」「あずま・さかえ保建て替えに関する説明会」の開催を市をお願いしていく予定です。

※ 新保育園を含めた各保育園の方針・内容の分かり易い提示を！